



## クラブに活力を

### 1月例会会長挨拶

古賀 靖子

新年あけましておめでとうございます。政府が昨年末、「年末年始は静かに過ごして」と呼びかけましたが、皆



様は如何でしたか？昨年暮れから欧州を中心に感染が広がったコロナウイルスの変異種が日本へも上陸したと報道されましたが、感染度が非常に高く、子供でも感染しやすいそうです。それだけに、私ども高齢者はより一層の防御対策が必要になっています。手指の消毒、手洗いはもとより、マスク着用など3密防止を厳守し、暮らしが大きく変わるこのコロナ時代、「コロナを正しく恐れる」ことが大事なことです。

日本は昨年暮れ、「カーボンニュートラル2050」を打ち出し、ゲノム編集技術を使って品種改良した「ゲノム食品」を登場させるそうです。このように、コロナ禍をきっかけに社会は目まぐるしく変化し、変革の時代を迎えています。

北九州プロバスケットボールクラブにおいては、会員平均年齢 78.7 歳、会員 36 名(うち女性 17 名)という高齢、低人員という未だかつてない最悪の状況に落ち込んでいます。これを打破するため、最近注目されているWebやZoomといったインターネット・システムに挑戦しようではありませんか。そうすることで、直接対面しなくてもオンライン対話ができ、親子、兄弟、友人、知人との情報交換ができ、また新しい世界が広がってくるものです。このコロナ時代には大いに役立つので、会員の皆様と一緒に取り組んでいきたい、提案いたします。

どうか皆様、「みんなが主役、みんなが脇役」を実践し、クラブに活力をつけましょう。

## 各委員長 新年の抱負

企画委員長 竹原 英作

会員の関心に対応して、多少の啓蒙的な方向に卓話その他の企画を進めて行く。当委員会の目標はこの一言につきまします。先般実施した会員による意見交換会の結果も、勿論参考にさせていただきます。しかし、十分に集約されているかは些か疑問で、更なる平素の対話の必要性を感じます。考えれば難題です。

企画委員会は現在メンバー12名。尤も疾病や高齢化のため、戦力の衰えは否定の仕様がありません。若返りが必須の要件となっています。

親睦委員長 吉田 秀子

感染予防のルールを守っていただいたお蔭で、委員会、また、日帰りツアーもできた事感謝しております。6月まで、楽しかったツアーも計画しましょう。桜も良し、到津の森公園への花見ツアー等々思いめぐらしています。6月の任期満了まで、つつがなく委員会が開催され、楽しい輪がプロバス会員全体へと広がっていくことを願ってやみません。そのためにも、さらなる皆さまのご協力をお願いします。今の現場と心境での抱負は、私にとって大変厳しいものでした。年始の挨拶ができないことをお許しください

広報委員長 安高 洋一

今まで広報委員会では月報とリンク発行が主な仕事で、いわば内向きの広報活動ばかり。今、クラブで必要なのは新会員の確保と会員の若返りです。そのためにも外向きの広報活動が必要ですが、これといった具体策があるわけでもありません。みんなと協力して外向きの広報活動を模索していきたいと思っています

活性化委員長 近藤 哲生

ご承知の通り昨年発足した委員会ですし、会長を仰せつかった私が入会1年半となるが未だに会員増強方針は正直なところ五里霧中です。それかどうか少人数という事もあってブレインストーミング。考えつく点、思いつく点を遠慮なく述べ、決して他人を否定しない楽しい委員会がモットーです。

今年はホームページ元年となるべく努力します。プロバスケットボールクラブの情報発信・共有はもとより 新会員獲得ツールとして大いに期待しています。当然ホームページを円滑にするプロジェクト体制も必要になるでしょう。皆様のご協力宜しくお願い致します。

## 3年ぶりに意見交換会開く

2018年2月以来、ほぼ3年ぶりに「意見交換会」が開催された。

32名の会員がA=写真上、B=写真中、C=写真下の3班に別れ、クラブ運営について活発に意見を交換した。

前に行なった全会員によるアンケート結果に準拠した内容であった為、例会や委員会のあり方については、部分修正の意見があるにせよ、現状を肯定する見解が大勢を占めていた。司会再度の関心の一つに卓話の選択（実施内容）に対するメンバーの考え方は？というテーマがあったが、なかなか最大公約数的な把握のできる問題ではなく、常時企画の検討が必要なようである。

筆者が担当したBグループでは、同好会に関しても前向きな提言が出てきた。「時事放談会」（仮称）の開設や、合唱団の混声化等々。

3グループの開陳意見は、今後企画委員会が集約の上、役員会に報告、有意義な提言は順次採用されていく筈だと思われる（竹原）

提言を集約。有意義なものは今後採用へ



## 12月例会報告

会員出席者：32名

新入会員 近藤弘子氏（近藤会員御夫人）の自己紹介。ご夫婦での入会は本会では初めての快挙であり、後に続くことを願う。

植田会員指導による脳活体操。工夫されたリズム感ある体操で細やかながらも達成感を得た。12月誕生者なし。会食。休憩後、意見交換会の3グループに分かれた。

古賀会長挨拶。意見交換会実施。写真撮影時に活発な意見交換がなされている様子に接した。どのような指摘・提示がなされたか楽しみでもあるが会員諸氏の満足度のアップなど是非とも「楽しくなければプロバスでない」の具現化に努めなければならない。

休憩後、全日本プロバス協議会事務局報告（「ひろば」発刊、ホームページの閲覧案内、賛助会員の募集等）があった。さらに各委員会の活力ある報告（全員による意見交換会、新年会、ホームページ立ち上げに向けてのパソコン勉強会等）や同好会報告へと続いた。ショートスピーチは予定者が体調不良で欠席のため中止する。諸連絡・報告（新年会場の変更（小倉リーセントホテル）、各委員会の会議レジメの共通フォーマットの説明、信友会員の休会について）。

最後に遠藤会員リードによるプロバスの歌を高らかに斉唱した。次回からは植田会員編曲の二部合唱を実施したいものである。（中山）

## 新会員の紹介



近藤弘子さん 元市嘱託職員。趣味 音楽・演劇鑑賞

年齢を重ねるにつけ、このままでいいのかと不安を帯っていました。そんな時、いつも楽しそうにしている主人を見て、プロバスクラブの活動に興味を持ち、入会を決心しました。よろしくお願いいたします。

## 同好会活動報告

### ワインの会

#### 主役は映像での会合

12月20日、完全な感染防止策をとってのクリスマス会であったが、肝心の山下先生がオン・ラインでの参加という異例のパーティとなった。

病院の会食自粛の方針に各ドクターが対応されている模様。初めての「ライン」による交流は時代遅れの筆者には貴重な体験となった。

尤も映像でのレクチャーは無く、予め用意された資料とCDでシャンパーニュの知識を得ながらの乾杯。金色の輝きをめで、まるやかな美味を味わいながらも妙に落ち着かない。画面の先生に笑顔で眺められているためなのだ。シャンパンのあとはブルゴニユの香り高い1級品、大変口当たりのマイルドなボルドー産とフランス3大産地の作品が続き「ナイスチョイス」の音が聴こえた

この日の参加者は10名（内会員7名）恒例のプレゼント交換会で和やかな締めくくりとなった。（竹原）



### 写友会

#### 称賛、激励の声が

令和2年12月、市立医療センターでの写真作品展示発表は8名の会員が出品、16点でした。コロナの心配もありましたが、無事展示は12月28日で終了しました。

今回もセンターの職員、来院の方々に熱心に観ていただき、特に古賀会長、竹原会員、松本会員、中山会員に友人、知人から称賛、激励の電話をいただきました。会員一同、これを一層の励みとして次の作品作りに頑張ります。（大川）

### 歴史文学講座

#### フィレンツェについて語る

柳澤講師による12月22日の講義は、前回に続き中世イタリアの都市フィレンツェについて語られた。内容は12～15世紀の間の都市構造の沿革に関する説話。貴族が主体の自治都市

## 「時が過ぎてゆく」



松本 忠会員

No52

パソコン仕事を終えて、ふとベランダの向こうを見ると、暗闇の中にマンションの青白い光が横につながっている。疲れた、さあ寝ようかなと思ったとき、ユーチューブで昔見た懐かしい映画や好きな音楽を探し始める。これが私の最近の日課だ。

今夜は、福岡サンパレスによく聴きに行った金子由香利のシャンソンが出てきた。♪あら！ボンジュール久し振りね…と「再会」を歌い始めた。語り始めた詩に次第に音が重なって歌になる。その歌はやがて詩の語りに変わって終わる。甘い歌声で心が癒されてくる。

続いて「時が過ぎてゆく」が流れてきた。歌詞がいい。♪眠っている間に 夢見ている間に 時は過ぎてゆく 子供の頃はもう夢の中 時は時は 今も過ぎてゆく。「時が過ぎる」という表現に哀愁を感じる。床の中で余韻を感じつつ、頭の中に浮かんでは消え、消えては浮かぶ我が人生を愛しみつつ、そのまま睡魔のとりこになる。

## 全日本プロバス協議会事務局報告

### 未加入クラブにアンケート実施

全日本プロバス協議会事務局は昨年12月28日、ザ・スチール・ハウスで事務局会議を開き、今年1月1日付発行の同協議会「ひろば」第4号の発送作業を行い、その日のうちに投函した。

続いて、新年早々の1月6日にも同所で事務局会議を開催。今回は全日本協議会未加入クラブ39クラブ宛にアンケート用紙の発送作業をした。このアンケートは、全日本協議会を核にプロバスクラブの認知度を高め、会員の減少や高齢化と一緒に頑張って取り組もうという狙いで作成した。（松本）

なお、この日は今年の活動を振り返りながら今年の活動方針を協議した



の中に、同業組合的団体が台頭して徐々に政治力を持つに至る数世紀。レクチャーは極めて細部に及んだ。フェレンツェといえ、メディチ家。中世ヨーロッパに盛名を馳せるこの家の詳細な資料が添えられ、面白く講義を聴いた。

例1 教会の中に家独自の礼拝堂を持っていたと、その略図。例2 15世紀(1457)の群を抜くこの家の納税額(収支表付き)など。個別具体的には興味があるが、全時代的展望の講義は今後に待ちたい。(竹原)

♡ふれあい掲示板♡

アクティブシニア向け生活情報誌

「さくら」に登録、タイアップ企画等期待

北九州プロバスクラブは、北九州のアクティブシニア向け生活情報誌「さくら」(発行部数3万部)のシニア応援団に登録、1月・2月号に「北九州プロバスクラブ」の名前が掲載された(写真)。登録料は年額1万円で、今年発行される毎号(6回)に掲載される。今回はクラブ名のみ掲載だったが、3月・4月号からクラブ名の下に「生き甲斐を求めて活動するシニア・クラブ」という説明と、事務局の電話番号が記入される。

登録することによって、北九州プロバスクラブの社会的認知度が高まることや、旅行やイベント等のタイアップ企画も期待される。昨年12月の役員会で、当クラブの「さくら」への窓口は活性化委員会に担ってもらうことを決めた。(松本)

一般社団法人 北九州プロバスクラブ

(有)エフ・ケー  
 中間市中鶴1丁目6番30号  
 ☎244-7343

医療法人 北委会 合馬内科クリニック  
 小倉北区鍛冶町2-2-22  
 ☎521-1053

北九州プロバスクラブ

古民家レストラン 食工房 神楽  
 京都郡みやこ町勝山松田1204  
 ☎0930-55-6776

小倉都心部クリーン作戦に参加  
 プロバスの幟に周囲の目が集まる

小倉都心部クリーンキャンペーンが昨年12月9日、小倉駅前のアイム北側で開かれた。午前10時の“出発式”には市民ら約200人が支給されたゴミばさみとごみ袋を持って集まり、うち北九州プロバスクラブからは9人が参加した。会場では、我がクラブの幟のみ1本が燦然と旗めき、周囲から「プロバスってどんな団体ですか」との質問も受けた。

結構たくさんのごみを集めてプロバスの仲間が一休みしていると、いきなりNHKのマイクが私・松本の前に向けられ、夕方のローカルで放送された。インタビューではプロバスの宣伝もしていたのだが、カットされていたのが残念だった。(松本)

この日の参加会員次の通り=遠藤、古賀、近藤、新城、住吉、橋本、藤原、松本、眞鍋(50音順。敬称略)



ありがとう BOX メッセージ 12月分 (順不同、敬称略)

★子歳も最後となりました。心新たに新年を迎えましょう。(古賀) ★忘れる事が増えました。頑張ります。(京谷) ★今年最後の例会に出席でき感謝です。(遠藤) ★感謝(松永) ★色々ご迷惑をお掛けして申し訳ありません(池田成彬) ★コロナに負けず頑張ろう!(住吉) ★自粛のお正月になりそう。(橋本) ★コロナ、インフルエンザに負けるな。(大川) ★ご協力ありがとうございます(中山) ★コロナ、コロナ、で今年も終わった(吉田信雄) ★今年はずらい事が多かった。来年は良い年に!!(吉田秀子) ★来年は良い年になりますように祈ります(洞) ★今年も何とか無事に年越しできそうです。(柴村) ★来年もよろしく、一年間お世話になりました。(神田) ★来年も頑張ります(眞鍋) ★令和3年は良い年であります様に。(松本) ★意見交換会が無事終わりホッと!ありがとうございます(内藤) ★無事入会できました。ありがとうございます(近藤哲生・弘子) ★安高 新宮 信友 岩崎 植田

|      |        |         |
|------|--------|---------|
| 収支報告 | 11月末残高 | 79,401円 |
|      | 12月分   | 13,000円 |
|      | 12月末残  | 92,401円 |



編集は安高 洋一会員